総務企画防災常任委員会行政視察報告書

黒川　貫男

〇愛知県半田市

「マイレポはんだの概要と災害時の活用について」

【所　見】

名古屋駅からＪＲを乗り継ぎ、到着した半田市は知多半島の中央に位置し、古く江戸時代から温暖な気候と良質な地下水に恵まれたことから醸造業が栄え、「酒、酢、味噌」が製造され、それらの製品を半田運河から廻船で大阪、江戸に運び手広く商売が盛んだった名残が色濃く残った街でありました。今回の視察項目である「マイルポはんだ」の取り組みの背景には昭和３１年に見舞われた「伊勢湾台風」による大きな被害の教訓や標高０ｍという状況のなかで風水害による防災を最重要な課題として位置付けとし、全庁、全市民に共通の防災意識の高揚と心構えを図り、水に強い都市を目指しての取り組みであると話しておりました。

平成２９年に導入された「マイレポはんだ」事業は台風や大雨などの災害時に、市民の皆さんがそれぞれに災害の状況を自分たちのスマートフォンやパソコンから近辺の災害や冠水状況、がけ崩れ、通行不能な状況を「マイレポはんだ」のサイトに投稿することにより、インターネット上の地図に被害場所が表示され、時には災害状況が動画で見ることもでき、そのリアルタイムに投稿された情報をもとに市役所の担当者も即座に対応に当たるとのことでした。

ただし、この機能を有するアプリは民間のものを利用することで、年間約５０万円ほどのアプリの使用料がかかり、また市民はこのアプリをダウンロードしてから投稿開始となることから、使い勝手にも疑問が残り、年配の市民からはダウンロードやスマートフォンの使いこなしなど課題はありそうだ。またこの様な災害時に「マイレポはんだ」の情報を見て簡易な被害の状態ならば、地域住民の協力により市民が自主的にそれらに対応することも視野に入れているそうであります。

しかし、それらの地域ボランティアは、各地の自治会等では年配が多いことから「マイレポはんだ」を活用するには課題解決も必要と感

じました。

〇愛知県高浜市

「市役所本庁舎整備事業について」

【所　見】

高浜市は窯業が盛んで、なかでも三州瓦の中心産地として栄えてきたといい、伝統豊かな街でありました。

高浜市での今回の視察では、どこの都市でも見られる公共施設の老朽化、これら今後の公共施設のあり方・検討事業が本格的に取り組んできたとの事です。

その後、「公共施設マネジメント白書」を作成し、財政状況を踏まえ、今後４０年間の公共施設のあり方の方向性を示す「基本方針」を打ち出し、それぞれの公共施設の現状分析や将来のあり方に対する「意識調査」など研究に取り組まれてきたとの事でした。

これらの取り組みにより平成２９年１月に新庁舎が完成致しました。この新庁舎は事業費の削減・平準化を図るため賃貸期間を２０年とし、民間事業者とのリース契約による庁舎整備でありました。

私も「新市庁舎」の視察の経験の中で、市役所とは「市民のシンボル」と思えるような「やや豪華」で威厳を保っている様に感じていましたが、高浜市役所は建設整備のコンセプトが「市役所ではなく事務所である」というところから始まっており、また民間事業者の発想のリース建設の関係もあるのかコンパクトで質素に思えました。

視察研修終了後、現地視察で市役所内を見せていただきましたが、議場も例外ではなく、議員席のすぐそばに傍聴席があり、議員の机また執行部の机も折り畳み式で必要によっては議場が広いホールになり、議会が無い時には賃貸しで貸室となるとの事でした。また、市長室・副市長室を拝見させていただきましたが他から見ると狭い空間でありました。

この様な事務環境や市民の意識の観点からも、市役所をはじめ足利市の公共施設の在り方には市民の声をしっかりと聴き、様々な角度から議論をし、取り組まなければならないと痛感しました。